



腎臓は、尿を作ることにより体内臓器の活動で出てきた老廃物を捨てたり、イオンや酸の濃度を一定にしたり、体内の水分量を一定に保ったりする働きをしています。腎臓は生体の内部環境を一定に保

徳島大学病院腎臓内科

脇野修教授



下していきます。こうした慢性の腎臓の機能低下は慢性腎

働き者臓器と新たな国民病

つ役割をしており、全ての臓器や細胞の活動を安定させる、いわば、縁の下の力持ちの働きをしています。ところがこの働きは加齢とともに低下するだけでなく、高血圧や糖尿病、肥満といった生活習慣病が原因で、知らぬ間に低

臓病（CKD）と呼ばれており、日本国民成人の13%を超える方が罹患しているといわれています。この新たな国民病とも位置付けられる慢性腎臓病の恐ろしさの1つは、進行して腎臓の働きが廃絶すると、透析や

は腎臓が縁の下の力持ちであるので、その働きの低下で腎臓以外の臓器にさまざまな合併症を引き起こしてしまつてとです。慢性腎臓病は心臓病や骨の病気、貧血や神経の異常、筋力の低下や運動能の低下など全身の合併症を引き起

活習慣病の管理、腎臓の過剰労働を抑制する食事や生活習慣の励行が重要です。定期検診の検尿検査や、かかりつけの先生による生活習慣病の治療や指導、更に早いうちの腎臓専門医への紹介、逆紹介が重要です。徳島大学病院で

腎臓移植を必要とする末期腎不全という状態になることで、透析療法は血液透析、腹膜透析と二つの方法がありますが、血液透析なら週3日の通院、腹膜透析なら毎日の自宅での医療行為が必要とされ、患者さんは生活の制限を余儀なくされます。慢性腎臓病のもう一つの恐ろしさ

こします。慢性腎臓病の患者さんはそれぞれの合併症の発症に注意を払わなければなりません。慢性腎臓病は治療よりもその発症を予防したり、進行速度を遅らせたり、透析への移行を予防したりすることが重要です。慢性腎臓病の早期発見、その進行の原因となる生

は総合腎臓病センターが設立され、その活動をもとに慢性腎臓病患者の早期拾い上げと全身管理のため、さまざまな診療科との共同の診療を行っています。超高齢化社会の中、腎臓を守って、患者さんの健康寿命延長の実現に全力を尽くしたいと考えています。